



No. 198

昭和41年7月1日 発行  
昭和35年6月21日  
第三種郵便物認可  
毎月1回1日発行

発行所 焼津市新屋63  
編集兼 発行人 萩原 始  
印刷 シブヤ印刷工芸社

## 高速道路建設と並行して 進められる市の道路行政

の発展に資する使命は大き  
くその効用は非常に重要で  
道路の良否はその国の文化  
の程度を示すものといわれ  
ております。  
政府において道路整備に  
地域内の重要な都市と連絡  
する自動車高速交通に供す  
るための幹線自動車国道と  
して緊急に整備が急がれ市  
内でも盛んに工事が進めら  
れている東名高速自動車道

## 循環道路の整備

# 高草橋の建設から

設から  
ます。  
すべての道路  
考へ  
もの

舖裝工事

( 完成した二角太極 ) ; 南側より写

で昭和四十一年度の建設工事の計画についてお知らせいたしましょう。

二、立ち遅れ地域の開発を目的とした産業道路の整備を積極的に取り上げ、道路網の新設改良ならびに舗装を全面的に実施する予定であります特に大富、和田、東益津地域は最近土地改良あるいは農業構造改善事業を推進して、農業の生産性の向上を図りつつあります。が、生産地と消費地を結ぶ道路網の整備なくてはその効果は半減するものであります。

そこで本年はこの事業と合せて市域周辺循環道路の整備を取り上げる計画であ

すべての道路の設から道の整備の一關考へ、本年度にお久橋に架橋しよるものであります。

橋の整備

で、〇六八橋、延長にて五三六七米あり、このうち木橋八六、永久橋九八あり永久橋の割合は九三%を示しておりますが、相の老朽化あるいは巾員の隘が目立つて来ておりまので、ます昭和四十二年には東名高速道路工事用として道路公團が建設する朝霧川橋梁を将来は市有とすることと、この費用を道をもって負担し現在工事を進められております。

坂流をなるかす。八幡右脇線は現在施行中の朝比奈川に架る、高草橋により市東部地区と八幡地区との交通が図られ更に南北下して大村中学校横を通り前述の大村小土線に連絡することになります。しかも焼津インター・チエンジに最も近接し、市の中心を始としインター・入りのための優良の路線となることとあります。

### 道路新設改良事業から

- (1) 東名高速自動車道に関連するもの

大村小土線	県道藤枝大富線に接続する
石勝高崎線	高崎から野秋循環道路に接続
八捕石脇線	朝比奈川の新橋架設による東益津地域との交流を図る
大覚寺東1号線	東名高速道の側道的性質を有するも、地域の分断をさけるため
大富高州線	東名高速道と交叉して藤枝市との連絡と地域開発を図る。
浜当目花沢線	東名高速道工事用に使用するため整備

(2) 産業基盤整備道路として、地域の開発を図るもの

豊田大富線	測量工事及び大富土地改良区委託
浜當目中央線	改良工事
中新田下小田線	新設改良工事
石津下島線	改良工事
木屋川西松原線	用地買収及び改良工事
越後島宮前線	用地買収
宮田橋線	測量工事
五ヶ三島神社線	用地買収及び改良工事
當目方ノ上線	東益津土地改良区へ委託工事

もすび

# 十億円を越した昨年の予算

## 四十年度下半期財政事情の公表

昭和四十年度下半期分（昭和四十一年三月三十日まで）の予算の執行状況などについての財政事情が公表されたので、その主な内容についてお知らせいたします。

昭和四十一年度は、当市が財政の再建団体として、赤字の解消を行ない始めてから七年目に当たり、赤字解消を行ないながら、みなさん万四千円の最終予算となりました。

生活が一層向上しますよ

う、道路や学校の建設を始め、環境衛生の向上を図る

ために、当初一般会計予算

では八億一千九百三十万

円の予算を編成いたしました。

その後、七回にわたって予算の補正を行な

とおりで、昭和四十一年度最

終予算の特徴といえるもの

は才入の面では、市税の減

発展ぶりを表わすものでし

ょう。

この最終予算は表に示す

の最も関心の深いことです

とおりで、昭和四十一年度最

終予算の特徴といえるもの

は才入の面では、市税の減

発展ぶりを表わすものでし

ょう。

われているか」はみなさん

の最も関心の深いことです

とおりで、昭和四十一年度最

終予算の特徴といえるもの

は才入の面では、市税の減

発展ぶりを表わすものでし



